

CHANDLER LIMITED®

Germanium Pre Amp/DI



取り扱い説明書



<https://umbrella-company.jp>

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

はじめに

このたびはCHANDLER LIMITED GERMANIUMをお買い上げいただき誠にありがとうございました。
TGシリーズ、LTDシリーズにおいて革新的なビンテージデザインを極め、Abbey Road Studiosからも認められたWade Goeke氏による、全く新しい独創的デザインのビンテージサウンド、クラシックなゲルマニウムトランジスターをクラスA、トランスフォーマーバランスのサーキットに融合、GAIN、FEEDBACK、PAD、THICKの4つの要素が相互反応しあい、プリアンプの増幅プロセスを変化させます。EQ、コンプレッサー、エキサイターなどの従来の発想とは全く違った方法で、様々なトーン（音色）を操ります。

全く新しいサウンドパレット。ハイファイサウンドからビンテージサウンドまで自在なコントロールが魅力です。

コネクション

CHANDLER LIMITEDのTG RACK MIXERは全てのコネクションにトランスフォーマーバランスのXLRタイプの入力をご用意されております。全て2番ホットの仕様です。

外部パワーサプライ（別売）



専用の別売外部パワーサプライ（PSU-1）を使用します。以下のような構成になっています。

chassis and audio ground

2) 48Volt

3) +28Volt

4) -28Volt

グラウンドについて

パワーサプライには2つの黒色のバナナコネクタが用意されています。ソリッドワイヤーでこのオーディオグラウンドをアースグラウンドに接地させることができます。これは設置されるスタジオの環境で選択してください。ノイズフロアの低い方を選択してください。

コントロール

GAIN/GERMANIUM DRIVE

このツマミはスタンダードなインプットゲインコントロールです。この Elma 製のインプットスイッチはステップ式になっています。-5dB (PAD が有効) ~+65dB のレンジを持っています。しかし実際の増幅率は Feedback コントロールと GAIN コントロールの比によって決定します。目安としては、GAIN が 0 で、Feedback が 0 の時のオーバーオールゲインは +10dB です。Feedback を 0 に設定するとオーバーオールゲインは +34dB になります。GAIN が 10 で、Feedback が 10 の時は +65dB となります。そしてトーンの質感は Feedback コントロールとの関係性により様々に変化します。この Germanium を使用するに当たっては従来の GAIN と OUTPUT のような関係の概念は捨てたほうが良いかもしれません。様々な組合せによる複雑なアナログ質感を GAIN、FEEDBACK、PAD の組合せでクリエイト可能です。

FEEDBACK

FEEDBACK コントロールはサウンドのエッセンシャルを決定つけます。この新発想の FEEDBACK コントロールはサウンドの THD、周波数特性、ゲインについて影響を与えます。基本的に FEEDBACK を 0 にしたときには、THD(倍音)は少なく、ゲインはあまりアップせずクリアなトーンの質感が得られます。FEEDBACK を大きめに設定すると THD(倍音)は増し、ゲインが大きくなります。また低域が大きく感じられ、高域が多少ロールオフしたような質感になります。同じ増幅を得る場合でも GAIN と FEEDBACK の組合せ位置が複数存在することになります。ただしこの組合せによって増幅ゲインは同じでも、異なる音質を得ることができるのです。また PAD スwitchを組み合わせれば更に多彩な音色をクリエイトすることが可能になります。

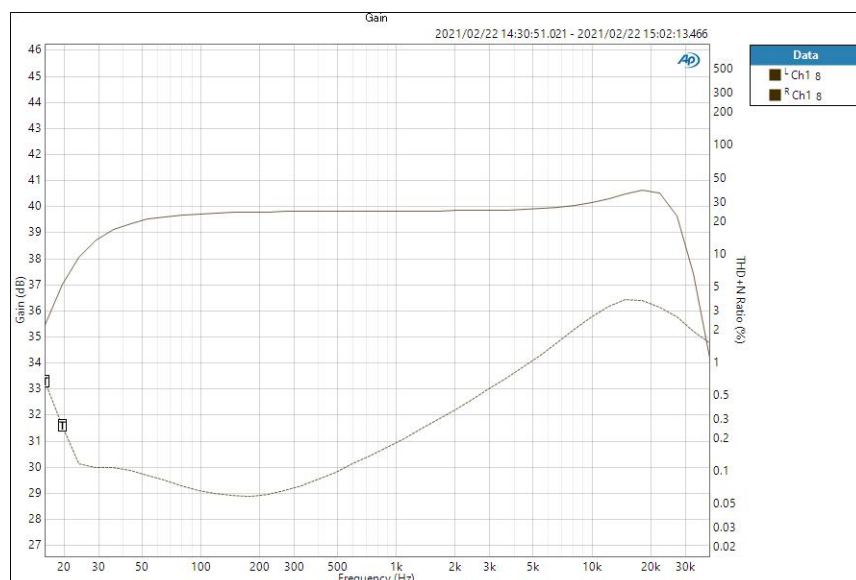
このコントロールはサウンドのエッセンシャルをコントロールし、THD、周波数特性、ゲインについて影響を与えます。基本的に FEEDBACK を 0 にしたときには、ゲインはあまりアップせず高域の反応が少し良くなるためクリアな質感が得られます。FEEDBACK を上げるとゲインが大きくなり、音の重心が下

がって音像の実体感が強く出てきます。しかしこれは、あくまで FEEDBACK だけを動かしたときの変化であり、実際には GAIN コントロールでの音色変化の要素が掛け合わされます。GAIN を上げるとレベルが上がります それに伴い倍音が豊かになります。FEEDBACK でレベルを抑えると それに伴い周波数特性が変化します。GAIN と FEEDBACK 2 つのコントロールの相互干渉を利用し、倍音と周波数特性がオーガニックに絡み合う音楽的な変化を操ります。

例えば、 +40dB のゲインが得られるセッティングであっても GAIN と FEEDBACK の組み合わせにより多くのバリエーションが得られます。以下に参考例を示します。

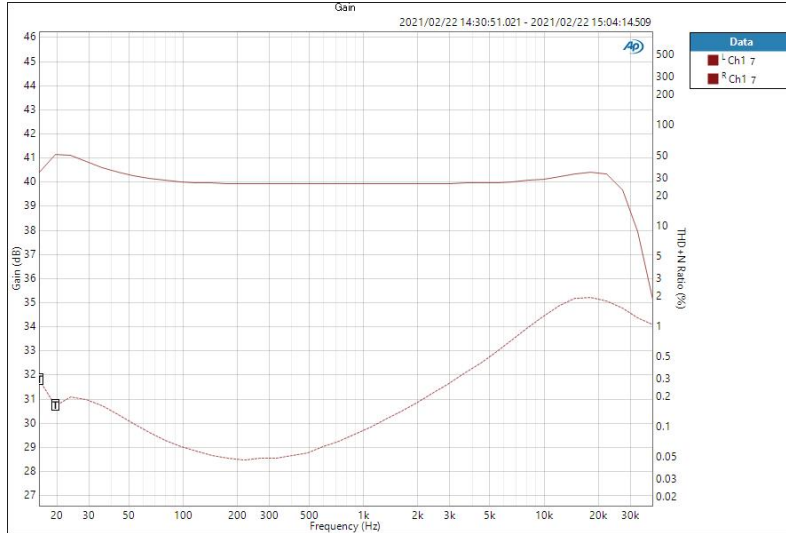
GAIN =10 、 FEEDBACK =1

倍音は多く、低域はロールオフ、高域は強調される傾向を持ちます。



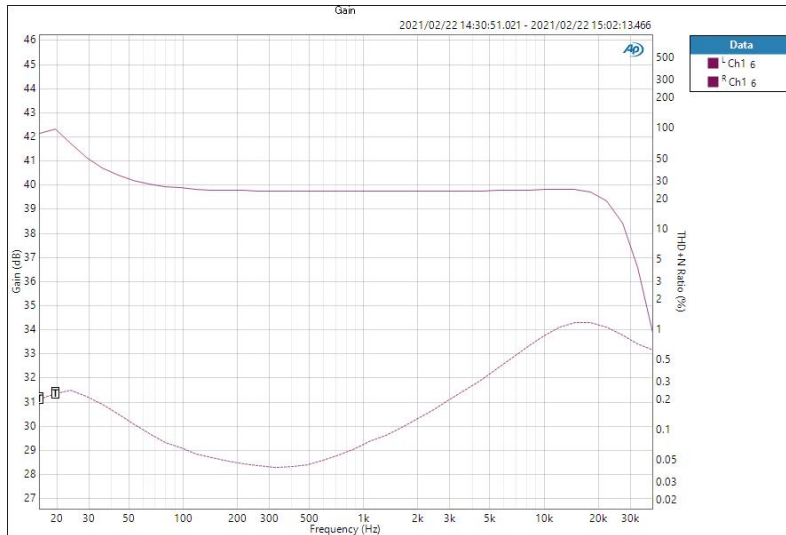
GAIN = 8 、 FEEDBACK = 2

倍音は少し減るものの、やや多めで推移。周波数特性は低域・高域ともにフラットに近く変化してきます。



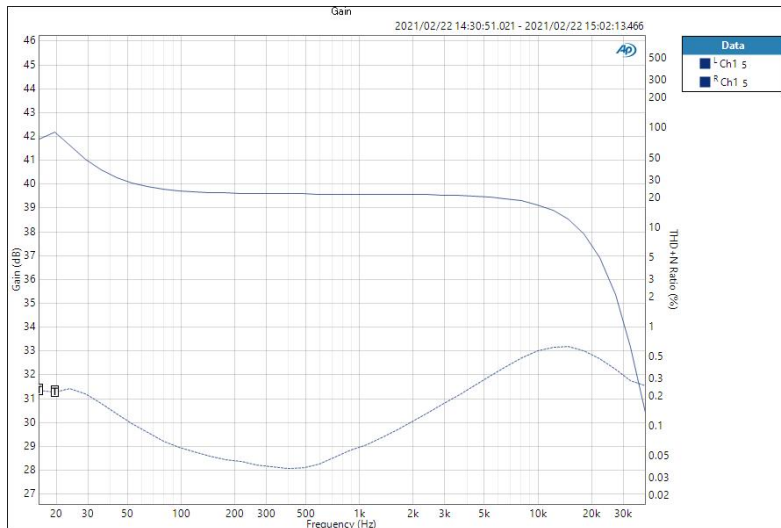
GAIN = 5 、 FEEDBACK = 4

倍音は控えめになっています、それでも高域にかけてはリッチな倍音量が確認できます。周波数特性は低域が強調され、高域フラットに伸び、ナチュラルにロールオフします。



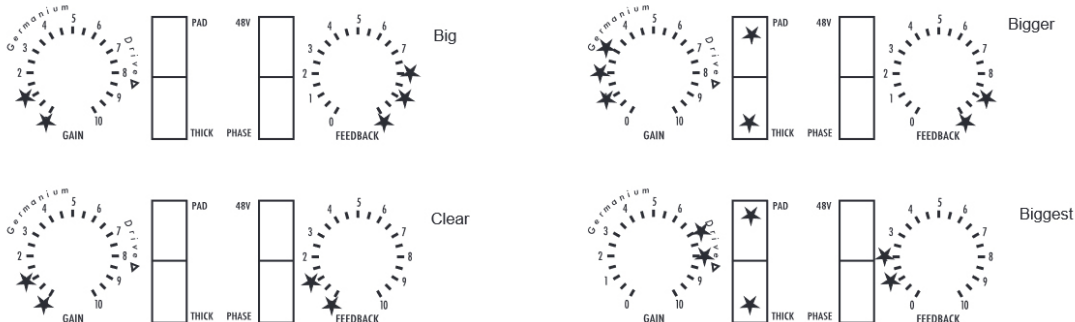
GAIN =2 (小さい)、FEEDBACK =10 (大きい)

このセッティングでは、倍音は最も少なく、低域が強調され、高域は緩やかにロールオフ。最も芯が強くウォームな質感が得られます。



同じ増幅度を得る場合でも GAIN と FEEDBACK の組合せが複数存在することになるため、それぞれで異なる質感が得られます。様々な音色のマイクプリアンプを使い分けるかのように、サウンドのバリエーションをコントロールすることが可能です。また PAD や THICK スイッチを組み合わせれば 更に多彩な音色をクリエイトすることが可能になります。

EXAMPLE SETTINGS-



PAD

-15dB の PAD スイッチです。Germanium においてはこの PAD スイッチを積極的に使用することがサウンドのバリエーションに貢献します。例えば PAD を上手く使えば、Germanium をハードにドライブさせたり音のバリエーションに貢献いたします。

THICK

THICK スイッチは信号のローエンドをより太く、強く演出します。このスイッチの効果はシンプルながら素晴らしい効果となります。またこの THICK スイッチの効果は GAIN の位置によってローエンドのニュアンスが変化します。GAIN との組合せによって様々な効果を出すことが可能です。

VU METER

LED メーターは 2 つのレンジを持っています。通常のレンジでは -12 ~ +3dB を、メーター横のスイッチを押して High Range モードにすると +5 ~ +20dB となります。



DI / UNBALANCED IN

このトグルスイッチでリアパネルのマイク入力とフロントパネルの楽器用 D.I 入力を切り替えます。



48 VOLT PHANTOM SWITCH

48V のファントムスイッチです。

PHASE

プリアンプの出力の位相を反転させます。

SPECIAL NOTE

*本機では従来の発想に捕われない設計を施すことにより幅広い音色のクリエイトを可能にしています。本機はトランスバランス出力で 600 オームの負荷インピーダンスに対してマッチングが取れる仕様になっています。入カインピーダンスが 600 オーム以外の機器に接続する場合は THICK 機能が過剰動作となり発振する場合がございます。本機ではこのプリアンプの特徴的な音質のカラーを重視した最終デザインを採用しているため同仕様のまま製品を出荷しております。また大抵の場合には PAD スイッチを使うことで発振を回避できます。

セッティング・リコール・シート

RECALL SHEET

